

製品名: Carma 1/CARD11 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87340**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	Calculated MW:133 kDa; Observed MW:133 kDa

抗原情報

遺伝子名	Carma 1/CARD11
別名	PPBL; BENTA; BIMP3; IMD11; CARMA1; IMD11A
遺伝子 ID	84433
SwissProt ID	Q9BXL7
免疫原	ヒト Carma 1/CARD11 の合成ペプチド

背景

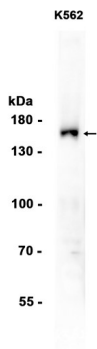
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、膜関連グアニル酸キナーゼ（MAGUK）ファミリーに属します。このファミリーは、

細胞膜の特定の領域において多タンパク質複合体を組み立てるための分子骨格として機能するタンパク質群です。また、このタンパク質は、特徴的なカスパーゼ関連リクルートメントドメイン (CARD) を有することで定義される CARD タンパク質ファミリーのメンバーでもあります。このタンパク質は、CARD14 タンパク質と類似したドメイン構造を有しています。両タンパク質の CARD ドメインは、細胞アポトーシスおよび NF- κ B 活性化の正の調節因子として機能することが知られているタンパク質である BCL10 と特異的に相互作用することが示されています。細胞内で発現すると、このタンパク質は NF- κ B を活性化し、BCL10 のリン酸化を誘導しました。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



Carma 1/CARD11 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して、K562 細胞抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。